

第15回 トンネル施工検討委員会シールドトンネル部会 議事概要

1. 開催日時・場所

令和6年12月2日（月）13:00～15:30

JR東海品川ビル会議室

2. 出席者

委員：立命館大学総合科学技術研究機構上席研究員 小山 幸則（部会長）ほか7名

※WEB参加 2名含む

3. 事務局

東海旅客鉄道株式会社 中央新幹線推進本部

4. 議事概要

(1) 調査掘進を行っている工区について

ア. 第一首都圏トンネル新設（小野路工区）

地表面変位、振動・騒音の計測など周辺への影響を確認しながら掘進してきたところ、ルート沿線の地表面の1箇所で湧水、気泡が発生していることを確認し、掘進を一旦停止した。湧水、気泡は止まっており、今回の事象と工事との因果関係を調べていることについて、事務局から説明を行った。

委員からは、今後の調査掘進を確実に進めていくためにも因果関係を調べるよう、助言があった。

イ. 第一中京圏トンネル新設（名城工区）

調査掘進の状況について、地表面変位、振動・騒音などのデータを取得しながら慎重に掘進を進めていることについて、事務局から説明を行った。

委員からは、適切に状況を把握しつつ、引き続き慎重に作業を実施していくよう、助言があった。

(2) 調査掘進での確認結果について

ア. 第一首都圏トンネル新設（北品川工区）

調査掘進の確認結果をとりまとめた内容について、事務局から以下の説明を行った。

- ・ 泥土圧、泥土の性状、掘削土の取込み量など、施工管理上の確認結果について
- ・ 地表面変位、振動・騒音、地下水位など、周辺への影響の確認結果について

このほか、調査掘進中に付近の河川の水面に泡が発生していることが観測された事象

については、調査掘進を終えた現在においても泡は発生しており掘進とは明確な関係性が見られないと考えられること、また、周辺の環境に影響がないことについて、事務局から説明があった。

委員からは、調査掘進が適切な施工管理のもと周辺に影響を与えることなく実施されたことが確認できたので、今後の本格的な掘進にあたっては調査掘進と同様に慎重かつ確実に進めていくよう、助言があった。

イ. 第一中京圏トンネル新設（坂下西工区）

調査掘進の確認結果をとりまとめた内容について、事務局から以下の説明を行った。

- ・ 切羽の安定確保、排泥管の閉塞防止、掘削土の取込み量の管理など、施工管理上の確認内容について
 - ・ 地表面変位、振動・騒音、地下水位など、周辺への影響の確認結果について
- また、今後の本格的な掘進において想定される亜炭坑跡の下を掘進する際の対応策についても、事務局から説明を行った。

委員からは、調査掘進が適切な施工管理のもと周辺に影響を与えることなく実施されたことが確認できたので、本格的な掘進にあたっては、調査掘進と同様に慎重かつ確実に進めるとともに、亜炭坑跡の空洞にも留意して施工していくよう、助言があった。

(3) 本格的な掘進を行っている工区について

第一首都圏トンネル新設（梶ヶ谷工区）、第一首都圏トンネル新設（東百合丘工区）における本格的な掘進の状況について、施工管理を慎重に行い、周辺への影響を確認しながら掘進を進めていることについて、事務局から説明を行った。

委員からは、今後の掘進にあたっては、引き続き慎重に進めていくよう、助言があった。